

ゼバニヤ書

第一 章

アモンの子ユダの王ヨシヤの世にゼバニヤに臨めるエホバの言ゼバニヤはクシの子クシはゲダリヤの子グダリヤはアマリヤの子アマリヤはヒゼキヤの子なり

エホバ言たまふわれ地の面よりすべての物をはらひのぞかん われ人と獸畜をほろぼし空の鳥海の魚および躡礙になる者と悪人とを滅さん我かならず地の面より人をほろぼし絶んエホバこれを言ふ われユダとエルサレムの一切の居民との上に手を伸ん我この處よりかの漏のこれるバアルを絶ちケマリムの名を祭司と興に絶ち また屋上にて天の衆軍を拜む者エホバに誓立てゝ拜みながらも亦おのれの王を指て誓ふことをする者エホバに停り離るゝ者エホバを求めず尋ねざる者を絶ん
 汝主エホバの前に黙せよそはエホバの日近づきエホバすでに犠牲を備へその招くべき者をさだめ給ひたればなり エホバの犠牲の日に我もろもろの牧伯と王の子等および凡て異邦の衣服を着る者を罰すべし その日には我また凡て闕をとびこえ強暴と詭謬をもて獲たる物をおのが主の家に満す者等を罰せん エホバ曰たまはくその日には魚の門より呼號の聲おこり下邑より喚く聲おこり山々より大なる敗壞おこらん マクテシの民よ汝ら叫べ其は商賣する民悉くほろび銀を擔ふ者悉く絶たればなり その時はわれ燈をもちてエルサレムの中を尋ねん而して涇の上に居着て心の中にエホバは福をもなさず災をもなさずといふものを罰すべし

イ何四・三	ニ何一〇・五	ト賽四八・一	何四	三、一七、一五・六	ワ賽三四・六	耶四六	タ雅五・一
ロ結七・一九、一四	ホ王下二三・一二	耶一五	ヌ何七・七	二〇・結三九・一七	レ耶四八・一	一	一
三四・七 太一三	一九・二三	チ書二三・七	王上	ル哈二・一〇	亞二	默一九・一七	
西一	ヘ王上一八・二一	王一一・三三		一三			
ハ王下二三・四、五	下一七・三三・四一	リ賽一・四	耶二・一	ヲ賽一三・六	カ耶三九・六	ソ詩九四・七	

ツ申二八・三〇・三九　　廢五・一八　番一・ノ詩ハ三・一〇　耶九　マ耳ニ・一六　エ詩一〇・五・四　廢五　六、七、八　亞九・五　一四
 廢五・一　一八　二二・一六・四　ケ伯ニ・一・一八　詩一　六
 ネ米八・一五　ム耶四・一九　オ鐵ニ・一・四　結七・四　賽一七・一三　テ耳ニ・一四　廢五・サ耶六・四、一五・八　七、五・七、八
 ナ耳ニ・一・一　ラ賽二二・五　耶三〇　五九・一〇　賽一九　何一三・三　一五・拿三・九　キ結三五・一六
 ラ耳ニ・一・一　牛詩七九・三　タ番三・八　フ王下二三・二六　ア耶四七・四、五　結ユ書一三・三　基一・二二、二・二
 ラ耳ニ・一・一　牛詩七九・三　ヤ番一・二・三　コ詩七六・九　ア耶四七・四、五　結ユ書一三・三　番二・九
 ラ耳ニ・一・一　牛詩七九・三　コ詩七六・九　ア耶四七・四、五　結ユ書一三・三　コ詩七六・九　ア耶四七・四、五　結ユ書一三・三　番二・九

一三
かれらの財寶は掠められ彼らの家は荒果んかれら家を造るともその中に住ことを得ず葡萄を植るともその葡萄酒を飲ことを得ざるべし

一四
エホバの大なる日近づけり近づきて速かに来る聽よ是エホバの日なるぞ彼處に勇士のいたく叫ぶあり
一五
その日は忿怒の日患難および痛苦の日荒かつ亡ぶるの日黑暗またをぐらき日濃き雲および黒雲の日　一六
ふき鯨聲をつくり堅き城を攻め高き櫓を攻るの日なり　一七
われ人々に患難を蒙らせて盲者のごとくに惑ひあるかしめん彼らエホバにむかひて罪を犯したればなり彼らの血は流されて塵のごとくになり彼らの肉は捨られて糞土のごとくになるべし　一八
かれらの銀も金もエホバの烈き怒の日にはかれらを救ふことあたはず全地その嫉妬の火に呑るべし即ちエホバ地の民をごとごとく滅したまはん其事まことに速なるべし

一一
第二章　汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内に省みよ　一九
さる先エホバの烈き怒のいまだ汝等に臨まさる先エホバの忿怒の日のいまだ汝等にきたらざるさきに自ら省みるべし　二〇
すべてエホバの律法を行ふ斯地の遙るものよ汝等エホバを求め公義を求め謙遜を求めよ然すれば汝等エホバの忿怒の日に或は匿さることあらん

一四
夫ガザは棄られアシケロンは荒はてアシドドは白晝に逐ははれエクロンは拔さらるべし　二一
者およびケレテの國民は禍なるかなペリシテ人の國カナンよエホバの言なんぢらを攻む我なんぢを滅して住者なきに至らしむべし　二二
海邊は必らず牧場となり牧者の洞および羊の牢そこに在ん　二三
此地はユダの家の殘餘れ

もの
る者に歸せん彼ら其處にて草飼ひ暮に至ればアシケロンの家に臥んそは彼らの神エホバかれらを顧みその俘囚とらなれを

ハ われ 我す でに モアブの 嘲弄あざけり と アンモンの 子孫しじん の 馬署のしり を 聞けり 彼らは わが 民を 嘲り 自ら 誇りて 之が 境界を 侵せし
九くわ 是故こゆゑ に 萬軍ばんぐん の エホバエイスラエル の 神言かみいひ たまふ 我は 活く 必ず モアブは ソドムの ごとく になリ アンモンの
子孫しじん は ゴモラの ごとく にならん 是は 共に 蕎麻いらくさ の 蔓延はびこ と なり 鹽坑しほあな の 地 と なリて 長久に 荒はつべし 我民わがたみ の 遺れる
者もの かれらを 掠めわが 國民こくみん の 餘あま されたる 者もの かれらを 獲んえ 一一 この 事の 彼らに 臨むは その 傲慢たかがり による 即ち 彼ら 萬軍ばんぐん
ニ エホバの 民を 嘲りて 自ら 誇りたればなり 二二 エホバは 彼等に 對ひては 畏ろしく ましまし 地の 諸もろく の 神を 餓うし 滅ぼろきし 減じんし
たまふなり 諸もろく の 國の 民おのそのそ處ところ より 出て エホバを 拜まん

第三章

一 こうしへたり おこな もと
此暴虐を行ふ恃りかつ汚れたる邑は禍なるかな
二 これ こうき まちわざほひ
是は聲を聽いれず教誨を承すエホバに依頼キ
三 なか つかきたち へき
その中にをる牧伯等は吼る獅子のごとくその審士は明日までに何をも

ク耶三三・一、三二 ケ申三二・四
 哀二・一四 何九・七 フ耶三・三、六・一五、
 ヤ結二二・二六 八・一、七、六〇。ミ賽一四・三二
 マ番三・一五、一七 米コ耶八・六
 三・一、一 エ創六・一、二
 サ番一・一八
 キ賽一九・一八
 メ耶七・四 米三・一
 モ結三四・二八 米四

四 遺さざる夜求食する狼のごとし 四 その預言者は傲りかつ詐る人なりその祭司は聖物を汚し律法を破ることを
 なせり 五 その中にいますエホバは義くして不義を行ひたまはず朝な朝な己の公義を顯して缺ることなし然るに
 不義なる者は恥を知す 六 我國々の民を滅したればその檣は凡て荒たり我これが街を荒涼れしめたれば往來す
 る者なしその邑々は滅びて人なく住む者なきに至れり 七 われ前に言ひ汝たゞ我を畏れまた警教を受べし然らば
 その住家は我が凡て之につきて定めたる所の如くに滅されざるべしと然るに彼等は夙に起て己の一切の行状を
 壊れり

八 エホバ曰たまふ是ゆゑに汝らわが起て獲物をする日いたるまで我を俟て我もろもろの民を集へ諸の國を
 聚めてわが憤恨とわが烈き忿怒を盡くその上にそゝがんと思ひ定む全地はわが嫉妬の火に焼ほろぼさるべし
 九 その時われ國々の民に清き唇をあたへ彼らをして見てエホバの名を呼しめ心をあはせて之につかへしめん
 一〇 一 わが散せし者等の女即ち我を拜む者エテオ・ピアの河々の彼旁よりもきたりてわれに禮ものをさゝぐべし
 一一 二 その日には汝われに對てをかしきたりし諸の行爲をもて羞を得ことなかるべしその時には我なんちの中より
 一二 三 高ぶり樂む者等を除けば汝かさねてわが聖山にて傲り高ぶることなければなり 二 われ柔和にして貧き民をなん
 一三 ちの中にのこさん彼らはエホバの名に依頼むべし 三 イスラエルの遺れる者は惡を行はず謊をいはずその口の
 うちには詐偽の舌なし彼らは草食ひ臥やすまん之を懼れしむる者なかるべし

一四 一四 シオンの女よ歡喜の聲を舉よイスラエルよ樂み呼はれエルサレムの女よ心のかぎり喜び樂め 一五 エホバ

ゼバニヤ書 三・一六一一〇

一五六八

すでに汝の鞠を止め汝の敵を逐はらひたまへりイスラエルの王エホバ汝の中にいます汝はかさねて災禍にあふことあらじ 一六 その日にはエルサレムに向ひて言あらん懼るゝなかれシオンよ汝の手をしなへ垂るゝなかれと 一七 なんぢの神エホバなんぢの中にいます彼は拯救を施す勇士なり彼なんぢのために喜び樂み愛の餘りに黙し汝のために喜びて呼はりたまふ 一八 われ節會のことにつきて憂ふるものを集めん彼等は汝より出し者なり恥辱かれらに蒙ること重負のごとし 一九 視よその時われ汝を虜遇る者を盡く處置し足蹇たるもの救ひ逐はなたれたる者を集め彼らをして其羞辱を蒙りし一切の國にて稱譽を得させ名を得さすべし 二〇 その時われ汝らを携へその時われ汝らを集むべし我なんぢらの目の前において汝らの俘囚をかへし汝らをして地上の萬國に名を得させ稱譽を得さすべしエホバこれを言ふ

ゼバニヤ書をはり